

実施計画(令和2年度～令和4年度)事業一覧(節毎)

2節 歴史伝統(受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村)

	基本施策 番号	実施施策 番号	事業名
1	①	①	沖縄戦調査事業
2	①	①	文化財悉皆調査事業
3	①	②	村内遺跡発掘調査事業
4	①	③	中城城跡整備事業
6	①	⑤	世界遺産登録20周年記念事業
7	②	②	観光防災力強化支援事業
5	②	②	防災体制整備事業
6	②	③	文化団体育成支援事業
7	②	④	中城文化まつり事業

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名	沖縄戦調査事業					事業区分	継続事業
前年度事業費	10,063	千円	令和2年度事業費	15,788	千円	実施計画総事業費（令和2～4年度）	30,117 千円

事業概要	第四次総合計画位置付け	担当課	
沖縄戦の悲惨さや平和の大切さを後世に伝えていくため、沖縄戦調査員(嘱託)4名を雇用し、体験者からの聞き取りや各種文献の調査などを行い、村内で起きた沖縄戦の実態を明らかにして記録に残す。	施策の大綱	生涯学習課	
	基本施策	文化係	
	実施施策	担当係	渡久地 真
	その他関係施策	担当名	780
	事業期間	内線番号	780
	平成 25 年 ~ 令和 3 年	積算資料	有

事業を実施する必要性と現状の課題	事業実施効果
中城村は沖縄戦により大きな被害を受けているにもかかわらず、これまでに沖縄戦に関する本格的な調査がなされた事がなく、その実態がほとんど把握されていない状況にある。沖縄戦を体験した世代の方達も年々減少しつつあるため、聞き取りや戦跡調査、文献調査などを行い中城村における沖縄戦の実態を記録に留め、中城の歴史の一部として継承していく必要がある。	調査の成果は、護佐丸歴史図書館での企画展や地域情報システムなどで公開し、小中学校や各種団体の平和学習にも活用していく予定である。そのことにより、地域住民の平和への意識を高めるとともに、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に受け継いでいくことができる。

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
予算項目	事業費(千円)	内容	予算項目	事業費(千円)	内容	予算項目	事業費(千円)	内容
報酬費	7,200	嘱託員3名	報酬費	7,200	嘱託員3名			
報償費	1,366	専門家指導謝礼金	報償費	1,216	専門家指導謝礼金			
旅費	237	県外・普通・費弁	旅費	237	県外・普通・費弁			
需用費	6,963	消耗品・印刷製本	需用費	5,654	消耗品・印刷製本			
役務費	22	郵送料	役務費	22	郵送料			
合計	15,788		合計	14,329		合計	0	

財源内訳					財源内訳					財源内訳				
国庫補助金名	金額	千円	%		国庫補助金名	金額	千円	%		国庫補助金名	金額	千円	%	
沖縄振興特別推進市町村交付金	12,504		79	%	沖縄振興特別推進市町村交付金	11,246		78	%	国庫補助金名				
県補助金名	1,563		9.9	%	県補助金名	1,405		9.8	%	県補助金名				
市町村支援事業					市町村支援事業					市町村支援事業				
地方債				%	地方債				%	地方債				%
その他()				%	その他()				%	その他()				%
一般財源	1,721		11	%	一般財源	1,678		12	%	一般財源				%

令和2年度目標 (KPI等)	<ul style="list-style-type: none"> 仮称「中城村の沖縄戦－証言編」を発刊する。 仮称「中城村の学童疎開」を発刊する。 米軍資料の翻訳を行う。 	令和2年度との相違点
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 2年度に「中城村の沖縄戦－証言編」発刊 3年度に「中城村の沖縄戦－資料編」発刊 	目標
		令和3年度との相違点
		目標

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名	文化財悉皆調査事業					事業区分	継続事業
前年度事業費	9,796	千円	令和2年度事業費	8,700	千円	実施計画総事業費（令和2～4年度）	21,670 千円
			対前年増減額	▲ 1,096 千円			

事業概要	第四次総合計画位置付け					担当課				
村内文化財の保全と地域住民の郷土愛の高揚を図るため、文化財調査嘱託員3名を雇用して村内に残る文化財の悉皆調査を行い、各字の文化財パンフレットを発刊する。	施策の大綱	2節 歴史伝統（受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村）					生涯学習課			
	基本施策	① 歴史的環境の保全と活用					担当係	文化係		
	実施施策	① 学術調査・研究活動の推進					担当名	渡久地 真		
	その他関係施策						内線番号	780		
事業期間		平成	25	年	～	令和	3	年	積算資料	有

事業を実施する必要性と現状の課題	事業実施効果
村内には多くの文化財が残されているが、これらのほとんどは所在や由来が把握されておらず、開発等により失われつつある。そのため年次的に各字の文化財調査を行いその成果を広く公開して文化財愛護意識の高揚を図り、文化財の保存・活用を行う必要がある。地域の文化財に詳しい高齢者が年々減少している事から、迅速かつ効率よく多くの情報を収集する事が課題である。	文化財パンフレットを発刊して調査対象の各字に配布することで、郷土愛や文化財保護意識の高揚を図ることができる。また、護佐丸歴史資料図書館において調査成果展を開催することで村内外に文化財の情報発信が行うことができ、同施設の活用にも繋がる。また、調査で判明した文化財の中から特に重要なものを村の文化財に指定して整備することで保存・活用を行うことができる。

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容
報酬費	7,200	嘱託員3名	報酬費	7,200	嘱託員3名			
旅費	108	嘱託員普通・費用弁償	旅費	108	嘱託員普通・費用弁償			
需用費	1,388	消耗品・印刷製本費	需用費	5,650	消耗品・印刷製本費			
役務費	4	成果品郵送料	役務費	12	成果品郵送料			
合計	8,700		合計	12,970		合計	0	

財源内訳				財源内訳				財源内訳			
国庫補助金名	金額	千円	%	国庫補助金名	金額	千円	%	国庫補助金名	金額	千円	%
国庫補助金名	沖繩振興特別推進市町村交付金	6,870	79	%	国庫補助金名	10,280	79	%	国庫補助金名		
県補助金名	市町村支援事業	858	9.9	%	県補助金名	1,285	9.9	%	県補助金名		
地方債				%	地方債			%	地方債		
その他（ ）				%	その他（ ）			%	その他（ ）		
一般財源		972	11	%	一般財源	1,405	11	%	一般財源		

令和2年度目標（KPI等）	・これまでの調査成果を総括する「中城村文化財悉皆調査報告書」（3年度発刊予定）の執筆・編集 ・「中城村の文化財」の執筆・編集・発刊（500冊） ※発刊物作成に集中するため展示会は行わない	令和2年度との相違点	・これまでの調査成果を総括する「中城村文化財悉皆調査報告書」の執筆・編集・発刊 ・調査成果展の実施	令和3年度との相違点	
今後の展開	2～3年度に2種の冊子の発刊・配布を行う。	目標	「中城村文化財悉皆調査報告書」の発刊（500冊）	目標	

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名	村内遺跡発掘調査事業					事業区分	継続事業
前年度事業費	3,024	千円	令和2年度事業費	6,477	千円	実施計画総事業費（令和2～4年度）	17,111 千円

事業概要 村内の各所に点在する埋蔵文化財包蔵地（遺跡）における開発行為に対し、開発側と埋蔵文化財の取り扱いについて調整を行うため、事前に遺跡の範囲確認等のための試掘調査を実施する。	第四次総合計画位置付け						担当課			
	施策の大綱	2節 歴史伝統（受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村）					生涯学習課			
	基本施策	① 歴史的環境の保全と活用					担当係	文化係		
	実施施策	② 歴史的環境及び自然環境の保全					担当名	渡久地 真		
	その他関係施策						内線番号	780		
事業期間		平成	29	年	～	令和	5	年	積算資料	有

事業を実施する必要性と現状の課題	事業実施効果
開発を予定している場所に埋蔵文化財（遺跡等）が有る場合は、開発行為の前に事業者と埋蔵文化財の取り扱い（発掘調査を行うか、開発計画を変更して保存できるのか等）についての調整を行わねばならない。そのためには、事前に遺跡の範囲、深さ、年代などについて把握しておく必要があるため試掘調査を実施する。	試掘調査を行い開発予定地内の埋蔵文化財の状況を把握することで、その取り扱いについての調整を円滑に進めることができる。また、開発の途中で重要な遺構などが発見されて工事を中断するというようなことを防ぐことができる。

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容
報酬費	1,665	一般非常勤職員	報酬費	1,665	一般非常勤職員	報酬費	1,665	一般非常勤職員
共済費	8	発掘作業員労災保険	共済費	8	発掘作業員労災保険	共済費	8	発掘作業員労災保険
賃金	1,500	作業員・臨時賃金	賃金	1,500	作業員・臨時賃金	賃金	1,200	作業員・臨時賃金
旅費	24	一般非常勤職通勤手当	旅費	24	一般非常勤職通勤手当	旅費	24	一般非常勤職通勤手当
需用費	300	消耗品等	需用費	300	消耗品等	需用費	323	消耗品等
委託料	2,340	地形測量等	委託料	2,340	地形測量等	委託料	497	地形測量等
賃借料	640	重機等賃借	賃借料	640	重機等賃借	賃借料	440	重機等賃借
合計	6,477		合計	6,477		合計	4,157	

財源内訳				財源内訳				財源内訳			
国庫補助金名	国宝重要文化財等保存整備費補助金	5,056	千円 78 %	国庫補助金名	国宝重要文化財等保存整備費補助金	5,056	千円 78 %	国庫補助金名	国宝重要文化財等保存整備費補助金	3,200	千円 77 %
県補助金名	文化財保存事業費補助金	543	千円 8.4 %	県補助金名	文化財保存事業費補助金	543	千円 8.4 %	県補助金名	文化財保存事業費補助金	344	千円 8.3 %
地方債			千円 %	地方債			千円 %	地方債			千円 %
その他（ ）			千円 %	その他（ ）			千円 %	その他（ ）			千円 %
一般財源		878	千円 14 %	一般財源		878	千円 14 %	一般財源		613	千円 15 %

令和2年度目標（KPI等）	高原ホテル廃墟撤去跡地において、尾根沿いの地形測量と文化財の有無を確認するための試掘調査を実施する。	令和2年度との相違点	高原ホテル廃墟撤去跡の低層地での試掘調査を実施する。
今後の展開	廃墟撤去跡地での試掘調査を2カ年実施する。それ以外の場所での緊急調査にも対応する。	目標	高原ホテル廃墟撤去跡の低層地での遺跡確認。その他の村内各所での開発に伴う試掘の実施にも対応する。
		令和3年度との相違点	県営公園内の古墓確認
		目標	県営公園内での古墓（目標15基程度）の確認。その他の村内各所での開発に伴う試掘の実施にも対応する。

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名	中城城跡整備事業					事業区分	継続事業（公約）
前年度事業費	32,752	千円	令和2年度事業費	45,754	千円	実施計画総事業費（令和2～4年度）	127,262 千円
				対前年増減額	13,002	千円	

事業概要 中城城跡の保存・活用を図るため、発掘調査を始めとした各種調査や修復工事などの整備事業を実施する。	第四次総合計画位置付け						担当課		
	施策の大綱	2節 歴史伝統（受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村）					生涯学習課		
	基本施策	① 歴史的環境の保全と活用					担当係	文化係	
	実施施策	③ 中城城跡や歴史の道等の計画的な保存整備					担当名	渡久地 真	
	その他関係施策	中城城跡整備基本計画					内線番号	780	
事業期間	平成	7	年	～	令和	11	年	積算資料	有

事業を実施する必要性と現状の課題	事業実施効果
中城城跡は築城から600年余りも経過しており、城内各所に危険箇所が見られる。これらを放置しておくことで破損が拡大する可能性が高いことから、これらの修復を行うとともに、発掘調査等により城の歴史や構造を解明し、城の保存・活用を図っていく必要がある。さらに、城の正しい価値や歴史を観覧者に把握してもらい、より集客を図るためにもできるだけ早く城の近隣に博物館を建設する必要がある。	城壁等の修復を行うことで史跡自体を恒久的に保存する事ができ、危険箇所が減ることで観光客の観覧範囲も広がる。また、これまでの発掘調査により築城技術や城の歴史、海外との交易状況も徐々に解明されつつあるため、城の近隣に博物館ができるまでの間はこれらの成果を護佐丸歴史資料図書館で公開することで、村内外に中城城跡に関する情報を発信することができる。

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容
報酬費	6,798	整備委員・一般非常勤	報酬費	6,798	整備委員・一般非常勤	報酬費	6,798	整備委員・一般非常勤
賃金・共済費	1,815	作業員・臨時賃金, 労災	賃金・共済費	1,815	作業員・臨時賃金, 労災	賃金・共済費	1,815	作業員・臨時賃金, 労災
報償費	60	専門家指導謝礼金	報償費	60	専門家指導謝礼金	報償費	60	専門家指導謝礼金
旅費	412	費用弁償、県外旅費	旅費	412	費用弁償、県外旅費	旅費	412	費用弁償、県外旅費
需用費	593	消耗品、燃料費	需用費	421	消耗品費、燃料費	需用費	489	消耗品費、燃料費
委託料	10,185	設計監理、測量等	委託料	6,768	設計監理、測量等	委託料	4,950	設計監理、測量等
賃借料	880	車両賃借等	賃借料	880	車両賃借等	賃借料	880	車両賃借等
工事請負費	25,011	修復工事	工事請負費	28,600	修復工事	工事請負費	20,350	修復工事
合計	45,754		合計	45,754		合計	35,754	

財源内訳					財源内訳					財源内訳				
国庫補助金名	国宝重要文化財等保存整備費補助金	36,000	千円	79 %	国庫補助金名	国宝重要文化財等保存整備費補助金	36,000	千円	79 %	国庫補助金名	国宝重要文化財等保存整備費補助金	28,000	千円	78 %
県補助金名	文化財保存事業費補助金	945	千円	2.1 %	県補助金名	文化財保存事業費補助金	945	千円	2.1 %	県補助金名	文化財保存事業費補助金	735	千円	2.1 %
地方債			千円	%	地方債			千円	%	地方債			千円	%
その他（ ）			千円	%	その他（ ）			千円	%	その他（ ）			千円	%
一般財源		8,809	千円	19 %	一般財源		8,809	千円	19 %	一般財源		7,019	千円	20 %

令和2年度目標（KPI等）	当初は令和元年度に、一の郭北側城壁の平成28年度解体範囲の積み直しを終える予定だったが、同年度は文化庁の補助額減に伴い1/3程度しか積み直しができなかったため、令和2年度で北側城壁の積み直しを完了する。	令和2年度との相違点	一の郭北側城壁と西側城壁の間のコーナー部の解体・積み直しを実施する。	令和3年度との相違点	一の郭北側城壁の平成16年度に取り外していた部分の積み直しと、一の郭内の環境整備を実施する。
今後の展開	令和4年度で一の郭の整備を終え、令和5年度以降は南の郭の整備に移行する計画である。	目標	一の郭北側城壁と西側城壁の間のコーナー部の修復の完了。	目標	一の郭の整備の完了。

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名		世界遺産登録20周年記念事業						事業区分		新規事業（通常）	
前年度事業費		0 千円		令和2年度事業費		406 千円		対前年増減額		406 千円	
実施計画総事業費（令和2～4年度）		406 千円									
事業概要				第四次総合計画位置付け						担当課	
中城城跡が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の資産の一つとして世界文化遺産に登録され、2020年で20周年を迎える。そのため沖縄県と資産が所在する7市村合同で負担金を出して20周年記念事業実行委員会を立ち上げて記念式典や各種イベントを実施する。さらに、各市村で独自の記念イベントも実施する。				施策の大綱		2節 歴史伝統（受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村）				生涯学習課	
				基本施策		① 歴史的環境の保全と活用				担当係	文化係
				実施施策		⑤ 村民意識の高揚				担当名	渡久地 真
				その他関係施策						内線番号	780
				事業期間		令和 2 年 ~ 令和 年		積算資料		有	
事業を実施する必要性と現状の課題						事業実施効果					
世界文化遺産登録20周年を記念するとともに、国内外に対しこれら遺産の周知を図るため県・市村で協力して各種イベントを実施して情報発信するとともに、中城村民に対しても改めて中城城跡の価値を伝える機会を創出するため、中城村独自でもイベントを実施していかねばならない。産業振興課や、中城村観光協会と連携しながら実施していく。						・中城城跡のさらなる活用が図れ、観光振興にもつながる。 ・中城城跡に対する村民の愛着や誇りを高揚することができる。					
令和2年度			令和3年度			令和4年度					
予算項目	事業費（千円）	内 容	予算項目	事業費（千円）	内 容	予算項目	事業費（千円）	内 容			
需用費	80	消耗品、チラシ印刷									
補助金	326	実行委員会への補助									
合計	406		合計	0		合計	0				
財源内訳				財源内訳				財源内訳			
国庫補助金名		千円	%	国庫補助金名		千円	%	国庫補助金名		千円	%
県補助金名		千円	%	県補助金名		千円	%	県補助金名		千円	%
地方債		千円	%	地方債		千円	%	地方債		千円	%
その他（ ）		千円	%	その他（ ）		千円	%	その他（ ）		千円	%
一般財源		406 千円	100 %	一般財源		千円	%	一般財源		千円	%
令和2年度目標（KPI等）	○県・市村合同事業 スタッフリ-、出土品巡回展、世界遺産サミット、記念式典、記念シンポジウム等の実施 ○村独自の事業 村主催イベント名に「登録20種年記念」を付す			令和2年度との相違点				令和3年度との相違点			
今後の展開	生涯学習課としては、ごさまる科を通して世界遺産としての価値を児童生徒に伝えていく。			目標				目標			

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名	観光防災力強化支援事業					事業区分	継続事業
前年度事業費	18,420	千円	令和2年度事業費	17,427	千円	実施計画総事業費（令和2～4年度）	30,527 千円
			対前年増減額	▲ 993	千円		

事業概要	第四次総合計画位置付け	担当課						
大規模災害が発生した場合、港湾、空港、道路が復旧するまでの間、外国人観光客を含む観光客が沖縄県内に足止めとなり、観光避難民になることが想定される。 このため、沖縄観光防災力強化支援事業は、観光客の安全と安心を確保するために観光避難民に対する防災対応を支援することにより、安全・安心な観光地の形成を促進する。	施策の大綱	2節 歴史伝統（受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村）						
	基本施策	② 伝統文化・民族芸能の継承と発展						
	実施施策	② 地域文化に対する周知啓発の推進						
	その他関係施策							
	事業期間	平成	1	年	～	令和	3	年
		担当係	総務係					
		担当名	比嘉聖也					
		内線番号	213					

事業を実施する必要性と現状の課題	事業実施効果
いつ起こるかかわからない災害に備え、観光避難民に対し、防災力強化の取り組みを緊急かつ重点的に支援するため、増加する外国人観光客を含む観光避難民への食料、水、毛布、災害用トイレの備蓄及び備蓄倉庫の整備をする必要がある。	観光避難民への食料、水、毛布、災害用トイレの備蓄及び備蓄倉庫の整備することによって、災害時においても、安心・安全な観光地の形成を促進し、沖縄の観光に資する。

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容
需用費	311	観光防災備蓄費	需用費	100	観光防災備蓄費			
工事請負費	10,780	観光防災工事費	委託費	2,000	観光防災委託費			
備品購入費	6,336	観光防災整備費	工事請負費	10,000	観光防災工事費			
			備品購入費	1,000	観光防災整備費			
合計	17,427		合計	13,100		合計	0	

財源内訳				財源内訳				財源内訳							
国庫補助金名	沖縄観光防災力強化支援事業	15,684	千円	90	%	国庫補助金名	沖縄観光防災力強化支援事業	11,790	千円	90	%	国庫補助金名		千円	%
県補助金名		千円		%		県補助金名		千円		%		県補助金名		千円	%
地方債		千円		%		地方債		千円		%		地方債		千円	%
その他（ ）		千円		%		その他（ ）		千円		%		その他（ ）		千円	%
一般財源		1,743	千円	10	%	一般財源		1,310	千円	10	%	一般財源		千円	%

令和2年度目標（KPI等）	Wi-Fi整備、避難所等に必要な整備・備蓄等を実施する	令和2年度との相違点	Wi-Fi整備、避難所等に必要な整備・備蓄等を実施するほか、多言語対応の機器や看板を整備する。	令和3年度との相違点	
今後の展開	令和2年度に業務移転する新庁舎へのWi-Fi整備及び避難所等に必要整備・備蓄等を行う。	目標	Wi-Fi整備、避難所等に必要な整備・備蓄等を整備し、完了する。	目標	

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名	防災体制整備事業					事業区分	継続事業
前年度事業費	2,782	千円	令和2年度事業費	1,618	千円	実施計画総事業費（令和2～4年度）	3,278 千円
			対前年増減額	▲ 1,164 千円			

事業概要	第四次総合計画位置付け					担当課		
災害に強く、安心して暮らせる村づくりを推進するため、災害時に村民や観光客等が避難所生活を送ることとなった際に、物資の搬送が開始されるまでの非常食の備蓄整備を行う。また、水路の氾濫や集中豪雨などの水害時に、迅速な災害対応ができるよう、水害対策の備品整備等の拡充を図る。	施策の大綱	2節 歴史伝統（受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村）					総務課	
	基本施策	② 伝統文化・民族芸能の継承と発展					担当係	総務係
	実施施策	② 地域文化に対する周知啓発の推進					担当名	比嘉聖也
	その他関係施策							内線番号
事業期間		平成	26	年	～	令和	年	積算資料

事業を実施する必要性と現状の課題	事業実施効果
未曾有の被害をもたらした東日本大震災以降、防災に対する意識は否が応にも高まっている。本村においても、いつ起こるかかわからない災害に備え、災害に強く、安心して暮らせる村づくりを推進するため、防災基盤の整備をしていく必要がある。	食糧や水害対策の備品整備をすることによって、災害時においても、地域住民の安心・安全な暮らしの確保に寄与するとともに、迅速な災害対応が可能となる。

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容
需用費	848	備蓄食料購入費	需用費	780	備蓄食料購入費	需用費	880	備蓄食料購入費
需用費	770	吸水性土壌、防水シート						
合計	1,618		合計	780		合計	880	

財源内訳				財源内訳				財源内訳			
国庫補助金名	千円	%		国庫補助金名	千円	%		国庫補助金名	千円	%	
一括交付金	616	38	%								
県補助金名								県補助金名			
地方債								地方債			
その他（ ）				その他（ ）				その他（ ）			
一般財源	1,002	62	%	一般財源	780	100	%	一般財源	880	100	%

令和2年度目標（KPI等）	村人口21,000人の1/20の3日分食糧9,450食を確保するため、毎年賞味期限が切れた分を補充する。また、水害時に迅速な災害対応ができるよう、備品整備を行う	令和2年度との相違点	村人口22,000人突破することも予想されるので、非常食の個数の見直し。賞味期限が切れた分を補充する。
今後の展開	消費期限が近い食糧に関しては防災訓練等で配布する。水害救助支援ポート及びライフジャケット等を整備する。	目標	非常食100%の備蓄率維持
		令和3年度との相違点	非常食の種類を検討し、賞味期限が切れた分を補充する。
		目標	非常食100%の備蓄率維持

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名	文化団体育成支援事業					事業区分	継続事業
前年度事業費	952	千円	令和2年度事業費	952	千円	実施計画総事業費（令和2～4年度）	2,856 千円
				対前年増減額	0	千円	

事業概要	第四次総合計画位置付け	担当課			
文化の振興発展、村民へ文化推奨と身近に文化事業を感じてもらう環境の構築を担う村の文化的補助金交付団体（文化協会、中城ジュニアオーケストラ、中城村伝統組踊「護佐丸」保存会）に対し、補助金を交付して育成の支援を行う。	施策の大綱	2節 歴史伝統（受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村）			
	基本施策	② 伝統文化・民族芸能の継承と発展			
	実施施策	③ 文化団体の育成支援の推進			
	その他関係施策				
	事業期間	令和	2	年～令和	
			年	積算資料	無
		担当係	文化係		
		担当名	渡久地 真		
		内線番号	780		

事業を実施する必要性と現状の課題	事業実施効果
各種文化団体では普段から会員の自己鍛錬や団体ごとの自主活動に励んでいるが、それらを発表する場が少ないことから、発表の機会を設けるとともに、各種団体の交流の場とすることで相互理解を深め活動の活性化を図る目的で「中城文化まつり」を開催する。まつりの開催に当たっては、「中城文化まつり実行委員会」を立上げ、同委員会が運営を行っていく。	各種団体が普段から積み重ねてきた技を発表する場を設ける事で、文化の継承と創造発展に寄与し、村民の文化の向上を図ることができる。

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容
補助金	652	文化協会	補助金	652	文化協会	補助金	652	文化協会
	200	中城組踊護佐丸		200	中城組踊護佐丸		200	中城組踊護佐丸
	100	中城ジュニアオーケストラ		100	中城ジュニアオーケストラ		100	中城ジュニアオーケストラ
合計	952		合計	952		合計	952	

財源内訳				財源内訳				財源内訳			
国庫補助金名	千円	%		国庫補助金名	千円	%		国庫補助金名	千円	%	
県補助金名				県補助金名				県補助金名			
地方債				地方債				地方債			
その他（ ）				その他（ ）				その他（ ）			
一般財源	952	100	%	一般財源	952	100	%	一般財源	952	100	%

令和2年度目標（KPI等）	各団体の活動活性化と会員の増加 自主活動の開催増。活動の活性化へ向けた会員を増員。文化まつりへの出演。	前年度との相違点	自主活動開催へ向けた協力 会員の増員へ向けた協力	令和3年度との相違点	
今後の展開	継続的な団体の育成支援、指導者の育成や活動補助を行う。	目標	自主活動の開催増。 活動の活性化へ向けた会員を増員。	目標	

実施計画書（令和2年度～令和4年度）

事業名	中城文化まつり事業						事業区分	新規事業（通常）	
前年度事業費	0	千円	令和2年度事業費	3,000	千円	対前年増減額	3,000 千円	実施計画総事業費（令和2～4年度）	3,000 千円

事業概要	第四次総合計画位置付け						担当課		
自然と風土、歴史と伝統によって培われた中城の文化を広く村内外に発信していくため、第10回中城文化まつりを開催する。	施策の大綱	2節 歴史伝統（受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村）						生涯学習課	
	基本施策	② 伝統文化・民族芸能の継承と発展						担当係	文化係
	実施施策	④ 地域文化の発展に向けた取り組みの推進						担当名	渡久地 真
	その他関係施策							内線番号	780
	事業期間	令和	2	年	～	令和	年	積算資料	有

事業を実施する必要性と現状の課題	事業実施効果
各種文化団体では普段から会員の自己鍛錬や団体ごとの自主活動に励んでいるが、それらを発表する場が少ないことから、発表の機会を設けるとともに、各種団体の交流の場とすることで相互理解を深め活動の活性化を図る目的で「中城文化まつり」を開催する。まつりの開催に当たっては、「中城文化まつり実行委員会」を立上げ、同委員会が運営を行っていく。	各種団体が普段から積み重ねてきた技を発表する場を設ける事で、文化の継承と創造発展に寄与し、村民の文化の向上を図ることができる。

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容	予算項目	事業費（千円）	内容
補助金	3,000	実行委員会への補助						
合計	3,000		合計	0		合計	0	

財源内訳				財源内訳				財源内訳					
国庫補助金名	沖縄振興特別推進市町村交付金	2,256	千円	75	%	国庫補助金名		千円	%	国庫補助金名		千円	%
県補助金名	市町村支援事業	282	千円	9.4	%	県補助金名		千円	%	県補助金名		千円	%
地方債			千円	%	地方債		千円	%	地方債		千円	%	
その他（ ）			千円	%	その他（ ）		千円	%	その他（ ）		千円	%	
一般財源		462	千円	15	%	一般財源		千円	%	一般財源		千円	%

令和2年度目標（KPI等）	舞台部門1000人 展示部門1000人	令和2年度との相違点		令和3年度との相違点	
今後の展開	3年毎に開催	目標		目標	